

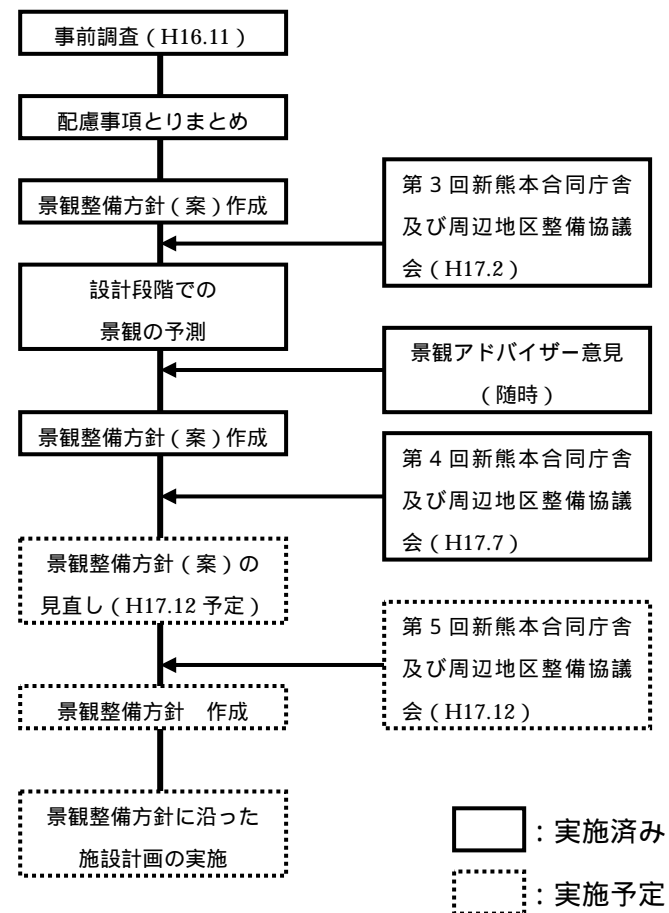
## 熊本合同庁舎整備事業

### 0 1 事業概要

- 1 - 1 . 地方支部分局：九州地方整備局営繕部
- 1 - 2 . 試行事業名：熊本合同庁舎整備事業
- 1 - 3 . 実施箇所：熊本県熊本市
- 1 - 4 . 事業概要
  - ・内容 合同庁舎の新営
  - ・規模 敷地面積 約 25,000 m<sup>2</sup>  
延べ面積 庁舎 約 27,000 m<sup>2</sup> (S-12-1)

熊本合同庁舎整備事業は、現在の熊本第一地方合同庁舎、及び熊本市内に点在している官庁施設の老朽、狭あい及び分散解消を目的とする整備である。整備に際しては、九州新幹線建設と一体的な副都心づくりを目指し、地域づくり・まちづくりに貢献する駅周辺整備との連携による官庁施設の整備を行うものとする。

また、熊本駅周辺地域まちづくり推進協議会などをつうじ、市民の景観に対する意識が高いため、事業実施を通じてまちづくりの一環として良好な景観の形成を行う必要がある。
- 1 - 5 . 事業の段階：設計段階（設計：熊本合同庁舎設計安井・シーザーペリ設計共同体）
- 1 - 6 . 景観評価に関して指導・助言を頂いた有識者  
両角光男 氏 （熊本大学工学部教授）  
（H16年度九州地整 景観アドバイザー）  
（新熊本合同庁舎及び周辺地区整備協議会委員長）  
（熊本駅周辺地域まちづくり推進協議会委員）
- 1 - 7 . 景観評価の試行フロー



### 0 2 景観形成に配慮すべき事項

- 2 - 1 . 当該事業周辺の景観や土地利用状況



熊本駅周辺及び当該事業敷地写真

- ・当該事業地は月星化成工場移転跡地である。なお建物保存等については別地に移転が完了している。（ ）
- ・熊本駅周辺地域まちづくり推進協議会が開催されており、まちづくりを現在協議中である。また当該敷地周辺についても新熊本合同庁舎及び周辺地区整備協議会を開催し、合同庁舎及び周辺地区整備について協議中である。
- ・新幹線新駅周辺整備推進会議にて熊本駅舎及び熊本駅前広場についても協議されている。



熊本学園大学に移築された煉瓦造りの動力関係室



- 2 - 2 . 当該地域における景観形成の目標像
  - ・熊本駅周辺地域まちづくり推進協議会にて協議中
- 2 - 3 . 当該地域における景観に関する規制等
  - ・現在のところ特になし

0 3 景観整備方針

熊本合同庁舎整備計画において景観形成に配慮した施設整備を行うために、「新熊本合同庁舎及び周辺地区整備協議会」、「熊本駅周辺まちづくり推進協議会」による副都心構想案、熊本市の「都市マスタープラン」等をまとめ（２．景観形成にあたり配慮すべき事項）、それに基づいた以下のような目標を設定し施設整備を行っていく。なお、景観整備方針の内容は熊本駅周辺地域まちづくり推進協議会等の議論を踏まえ、適宜見直すこともある。

3 - 1 ． 景観形成の目標像

副都心の核となるシンボル性を持ちつつ、まちなみと調和した人に優しい庁舎とする。

3 - 2 ． 施設と周辺景観との関係に対する基本的な考え方

1.周辺の景観等への配慮の考え方

- ・周辺景観と調和しつつ、新しい副都心の核となるシンボル性をもつ施設とする。
- ・副都心のまちなみと調和を考慮し、壁面線・大きさ等に配慮した施設とする。

2.住民等の利用を考慮した整備の考え方

- ・人々が利用しやすい玄関までの通路と、憩うことができるゆとりある外部空間を確保する。

3 - 3 ． 施設や空間そのものの景観整備の具体的方針

1.施設の配置・規模・形状・色彩等の設定の考え方

<配置について>

- ・庁舎A棟は、将来のB棟配置計画を考慮し、熊本駅城山線や熊本駅南線にそれぞれ壁面を揃え、2棟を雁行させた建物配置とする。
- ・副都心計画上の拠点として、広場などの魅力ある公共空間を創出できる配置とする。
- ・施設に出入りしやすいように、玄関までの通路部分をゆとりのある配置とする。

<規模について>

- ・外壁を分節することで圧迫感のない建物とし、周囲とのスケールの調和を図る。

<形状について>

- ・「熊本の顔」となる新幹線側からの南西角、「熊本副都心の中の合同庁舎としての顔」となる熊本駅城山線側の北東角を、壁面線・色彩・素材等で表情に変化を与えた外観とし、威圧感のあるシンメトリーや正面性の強い建物ではなく、全方位からの景観に配慮する。

<色彩について>

- ・暖色系の色彩を取り入れることで、親しみやすい庁舎のイメージを表現する。

2.細部設計、材料選定の考え方

<シンボル性について>

- ・白色と暖かみある色を基調とした外壁とし、単窓と横連窓を組み合わせた特徴ある外観とする。
- ・平日や休日の散歩や木陰での休息ができるよう、誰もが集い憩える広場を設ける。
- ・入居官署や地域住民による屋外イベント活動に対応可能なスペースを確保する。

<材料選定について>

- ・地場産の樹木や土地の記憶が残るレンガを舗装材の一部に利用する。
- ・地球温暖化対策として舗装材の一部に透水性舗装・保水性舗装を用いる。

<緑化について>

- ・敷地全体の20%の緑化を確保すると共に、地域と調和した四季感あふれる植栽とする。
- ・緑ある駐車場を整備する。
- ・敷地外周部は、植栽帯等で区切り、開放感ある外構計画とする。

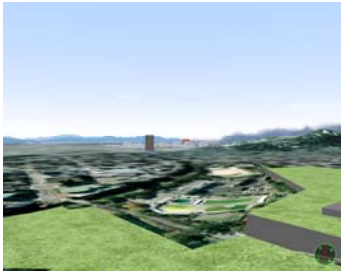
3.コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

- ・コスト縮減を考慮し、適切な外装材や仕上げ材を利用する。
- ・ライフサイクルコストを考慮した外装材、植栽や舗装材を利用し、費用対効果に十分考慮する。

0 4 景観整備に関するご意見

意見概要	対応等
【景観アドバイザー・住民の方からの意見】 施設の形状・色彩・規模・配置などの外観計画 ・新幹線の車窓からの眺め（特に南側からのアプローチ）は熊本のイメージを決定するので非常に重要 施設計画・外構計画 ・親しみやすく、誰でも気軽に立ち寄ることができる庁舎 ・城山線のにぎわいを考慮した計画 ・坪井川からの景観への配慮 ・緑の連続性など、周辺も含めてまちづくりを検討 ・熊本駅城山線からセットバックした配置計画 周辺計画 ・地域の交流の場の形成 ・憩いの空間や水辺を活用した空間 ・坪井川の有効活用と周辺整備のかかわり方を検討 ・公共空間の活用方法について、地元にとっても活力ある提案を検討 ・庁舎に近接する県道や坪井川を活かした計画	・ 合同庁舎の新幹線からや熊本駅城山線・坪井川からなど、全方位からの景観に配慮  ・ 敷地内の緑化等により周辺の緑との連続性に配慮  ・ 庁舎前にイベントのできる広場を設け、地域の交流の場として計画  ・ 合同庁舎広場、坪井川、街角広場、および歩道が一体となった空間「辻広場」を形成

V R (バーチャルリアリティ：コンピュータグラフィックによるシミュレーション動画)による景観シミュレーションの一場面



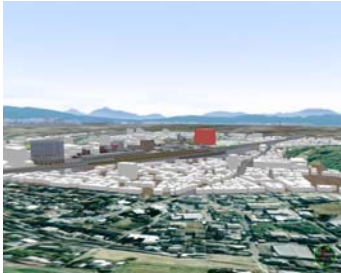
熊本城から見た合庁周辺



JR熊本駅前から見た合庁



県道城山線の現況(道路整備前)



花岡山から見た合庁



合同庁舎完成予想図



県道城山線の道路・周辺整備後